



つづく つながる 夢を育てる学び舎

国立二小だより

令和4年(2022年)12月23日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

支えと成長

校長 小林 理人

「支えと成長」これは、ある児童が学校生活を振り返って書いた作文の題に使われていた言葉です。その作文には自身の成長を振り返り、様々な人の支えや励ましによって困難な状況を乗り越えたり課題を克服したりしたことが綴られていました。そして、最後に「これからの人生を思い切り楽しむために、どんな困難にも立ち向かいたい」と決意の言葉で作文を結んでいました。

私はこの作文のことを週末に行われている児童支援のための会議の席で教員やスマイリースタッフ等の職員に紹介しました。教職員たちはこの作文を嬉しそうに読み返し、自分たちが日常行っている支援の意味を改めて確かめ合っていました。一年間を振り返る年末にふさわしい心温まる光景でした。

80日間の長い2学期が終わりました。コロナ禍ではありましたが、保護者や地域の皆様のご理解とご協力により感染症対策を講じながら予定していた大きな行事や学習、活動は全て予定通り行うことができました。そして、それらの活動を通して子供たちは大きく成長しました。一人一人の成長や活躍の様子は、本日担任から手渡したあゆみに記されています。

ここでは学年全体の成長や活躍について、印象的だった学年ごとの成長や活躍の様子を紹介します。

1年生は初めての運動会や展覧会で学年や学校全体でひとつのことを取り組むことを経験しました。その中で、みんなで取り組む学校ならではの活動の楽しさやそのためにしなければならないことを学びました。2年生は生活科の学習で1年生を招いて一緒に遊ぶ活動をしました。自分たちが楽しむだけでなく、学習を進める中で喜んでもらうことの楽しさに気が付いたり、そのための工夫をしたりすることができるようになりました。3年生は矢川たんけんに行きました。子供たちは季節ごとに様子を変える矢川の自然に親しむとともに、長い距離を安全に歩いたり自分の課題を意識しながら友達と一緒に楽しく工夫して活動したりできるようになりました。

4年生は自分の思いや考えを人に伝える力が一段と伸びてきました。運動会で取り組んだエイサーや展覧会の作品づくりでは沖縄の伝統文化を学び、踊りや作品を通して自分たちの気持ちや考えを堂々と表現することができました。5年生は夏休みに野外体験教室に行きました。2日間の協同生活では自分の考えで行動することを学びました。そして、みんなで楽しむためにすべきことを自分で考えながら友達との楽しい思い出を作りました。6年生は学校のリーダーとして2つの大きな行事を創り上げました。運動会の二松ソーランでテーマとして掲げた「伝創一結」の言葉どおり、二小の伝統をしっかりと繋ぎながら、自分たちで大切にしてきたことや得意なことを活かした活躍ができました。プラタナスの子供たちは自分の良さや得意なことを様々な場面で発揮しました。特に展覧会ではその良さを絵や工作等の作品として見事に表現しました。

コロナ禍によりこれまでは当たり前でできていたことができなくなりました。そして、できなくなったことで、当たり前でしていたことの意味を改めて考えることができました。様々な人たちと直接かかわる学校生活もその一つです。私たちはもちろんのこと子供たちも改めて友達や自分たちを支えてくれている様々な人とかかわりながら生活する学校の楽しさや難しさ、そして、困難を克服するために自分を支えてくれる人の有難さを感じているようです。

3学期はこれまで友達と過ごす中で学んだことや成長したことを確かめ合い認め合い、1年間のまとめや仕上げを行います。そして、新しい学年に向けての準備を進め、4月から始まる新しい学年に向けて新たな目標づくりにつなげる学期にしていきたいと思えます。

1年の結びに、保護者、地域の皆様には毎日の健康管理等に加え、学校行事の開催や日常の学校生活に関わることご配慮、ご協力をいただきありがとうございます。心から感謝申し上げます。年末年始がご家族と過ごす楽しい時間になることを心からお祈りいたします。